

はなしといふ仰かうぶり候ぬ、かたゞもつてよろこび入て候へ共此二三日少人女○義經ノ妻假稱○大に物參らせ候はず候へば、心ぐるしく候、關屋の兵らうまいすこし給候て、少人に參らせてとほり候ばや、かつうは御きたう、かつうは御情にてこそ候へと云○下略

〔吾妻鏡 二十二〕建保三年二月十八日丁未、仰諸國關渡地頭、可被止旅人之煩、但如船賃用途者、立料田、可募其替云云、

〔信長公記 二〕永祿十二年十月四日、田丸之城初トシテ國中城々破却之、御奉行萬方へ被仰付、其上當國○伊勢之諸關、取分往還旅人之爲惱之間、於末代御免除之上、向後關錢不可召置之旨、堅被仰付、

〔昨日波今日能物語〕嵯峨の大かく寺殿へ、をんごくのぢゆんれいが參り、これはなにと申所ぞといふ、これは御もんせきとこたへければ、三文にまけてけんぶつはなるまいかとて、いろ／＼申た、五文のせきとおもひしこと、口をしき次第なり、

○按ズルニ、當時關錢ノ多寡ニ依リテ其關所ノ呼名トシ、三文ヲ納ムルモノヲバ三文關ト云ヒ、四文ヲ出スモノヲバ四文關ナド稱ヘシヲ以テ、如此御門跡ヲ五文關ト思ヒ誤レルモノアリシナルベシ、

以關稅充神社修理料

〔眞本細々要記 二〕康永三年十一月十八日夜、神木御遷坐金堂前、當社○春ノ中社以下造替料所楠葉關ヲ依成一切經ノカタギ料所、衆徒訴訟也、

〔鶴岡文書新編相模國風土記稿所引〕松岡八幡宮御修理要脚事、所寄相模國小田原關所也、早三々年ノ間宛取關賃、可令終修造功之狀如件、永享四年十月十四日、信濃守殿持氏花押、

〔新編相模國風土記稿二十七〕早川庄

湯本村由毛度半古ハ東海道中ノ宿驛ニテ、湯本宿ト唱ヘシ由、古書等ハ多ク湯本宿ト記セリ、○中

略 永享ノ頃ハ當所ニ關門アリ、其征錢ヲ鎌倉大藏稻荷社修理ノ料ニ宛ラル、鶴岡神社大藏稻荷社